

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900540		
法人名	医療法人 あけぼの会		
事業所名	グループホーム さくらのいえ(ガーデン)		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字日照77-2		
自己評価作成日	令和4年7月13日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が内科クリニックの為、日頃から医療相談しやすく迅速な対応ができており健康維持管理に努めております。市内中心地に平成16年にガーデン・平成22年にテラスに開所しました。住み慣れた住宅地の環境で、隣のユニットと気軽に行き来でき、入居者同士で気分転換が図れるようしております。
共用型デイサービスを開設しており、入居をご希望されておられる方が、日頃から入居後に住まいする空間や、利用者職員との関係を構築することで、スムーズに入居生活に馴染めるようにように配慮しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スロープで棟が繋がる2ユニットのグループホームである。運営母体が医療法人で内科クリニック院長が理事長であり、医療連携が確立していることから、利用者は健康管理面のサポートを得ながら日々の生活を送っており、家族にとっても心強く安心な事業所になっている。ベテランで経験豊かな職員が多く、利用者の娘さんの年代にもあたり、利用者とのコミュニケーションは円滑である。平均年齢が90歳と高く、車椅子利用も多いが、利用者は表情豊かで穏やかに過ごしており、職員の高いケアスキルが伺われる。過去に水害が発生した地域であり、昨年10月の台風の際はいち早く避難するなど防災意識も高い。在宅の認知症の方へのサービスとして「共用型デイサービス」の制度を導入し、両ユニット各3人が利用者と一緒に行事や食事、入浴を楽しんでいる。アフターコロナでは、地域との繋がりを再構築し、ホームの持つ知見を生かし、地域の認知症高齢者に貢献していくことが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、常に共通理解を図り、業務での実践に繋げております。	平成16年の開設当初からの理念「ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに」の実践に向け、どのように支援に当たるべきか、職員は常に意識しながら利用者への声かけなどを行っている。理念に照らし、一人一人のケアプランに、その人に合った介護の目標を具体的に設定するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するために、地域交流は慎重に取り進めております。今後は状況を確認しながら、地域のボランティアによる、健康体操などを再開したいと願っております。	コロナ禍で地域の行事や催しは中止されたままで、地域との交流が途絶している。このような中、地域の防災活動に熱心な地元区長さんがホームの暮らしの様子を気にかけて、何かと助言をしてくれる。また、近所の洋菓子店ともケーキの購入等を通じ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の包括支援センターと情報交換をしながら、相談窓口に来所される、地域の方々に情報提供を試みております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員からの情報提供を参考にさせて頂き、地区の役員や民生委員等のご助言を仰ぎながら、ご利用者様への、サービス向上を図っております。	地区の民生・児童委員を中心に構成されており、コロナ禍により書面会議が続いている。集合形式の会議の際には、地域防災や防犯について活発な話し合いが行われていたが、現在は、運営状況の報告が中心になっている。今後は、ホームの運営課題、地域との交流等をテーマに意見や提案を求めていきたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、書類を直接手渡しで届けながら、疑問に思っていることや他のグループホームの取り組み状況を聞くことが出来ており、親切に伝えて頂いております。電話でも、随時、ご指導を仰いでおります。	市の長寿社会課からは、主にメールで様々な介護行政の情報が配信されている。必要により担当者を直接訪問し、助言、指導を得ている。市主催のケアマネ会議においても意見交換が行われるなど、市とは円滑な協力関係が構築されている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	敷地外や駐車場出入り口と玄関にはチャイムを設置し、フェンス内はユニット間と庭には自由に出入り出来るよう配慮しております。ご利用者様の安全確保のために必要性を感じた事案は、ご家族と相談しながら、基準に則して対応しております。	「身体拘束廃止委員会」に関する要綱を定め、職員で構成する委員会を3か月ごとに開催し、身体拘束をしないためのケアやスピーチロック防止のための言い換え言葉等の話し合いを行っている。年2回は関係資料で研修を実施している。現在、身体拘束を必要とする利用者はおらず、夜間を除き玄関の施錠は行っていない。	「身体的拘束の適正化のための指針」を整備することが求められます。また、高齢者虐待、感染症防止及び災害時等の業務継続に関する各委員会を設置し、指針の整備、研修の実施等に取り組むことが期待されます。(制度的には、令和6年3月末までの努力義務となっています。)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況や訴えに注意を払い、施設内でも身体状態に異変を見つけた時は、事故報告書を用いて情報の共有を試みております。内出血等を見つけた時は速やかにご家族に連絡し、適宜、通院加療を試みております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利譲渡に関しては常に個人を尊重し、自立支援の観点に立ち、ご利用者様の権利擁護を支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込みの段階から、ある程度の説明をさせて頂き、入居の際は特に関係書類を基にご納得頂けるようご説明しております。利用料の支払いは、金融機関への振り込みとしておりますが、手数料が発生しないシステムにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から寄せられるご意見やご要望は、施設の運営理念にかなう範囲であれば、「申し送りノート」に記載し、即座に職員各位に伝達いたします。運営方針に沿って、法人幹部と協議し、慎重に対応しております。	家族には、行事等のスナップ写真をまとめた毎月発行の「さくらのいえだより」に加え、利用者一人一人の1か月の生活の様子をお便りにして送っており、コロナ禍の中でもホームでの暮らし振りが分ると家族から好評を得ている。面会に制限があることから、家族からは以前のように面会できるようにして欲しいとの要望が強く、状況を見ながら対応することとしている。ホーム運営に関する意見、要望等は特に出されていない。	

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は一年に最低1回は職員と面談し、職員各位の意見や要望を出しやすいよう配慮しております。施設の運営方針を、職員各位が理解できるように、環境作りに留意し、職員の意見を大事にしております。	毎年、3月に施設長、4月に管理者が個人面談を行い、職員個々の勤務条件、仕事への思い、今後の希望等を聴取し、必要な助言を行っている。職員から、自分の住む家として施設を見た場合に気が付いた環境整備や設備のメンテナンスについての提案があり、改善等の参考にしている。また、各人が業務目標を決め、施設長や管理者が助言、指導を行ういわゆる「目標管理」的な手法も取り入れ、職員の資質向上にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は将来性を考えて事業所の計画をしており、職員の努力等が生かせるように法人内の人事異動も含め、職場環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や外部の研修は、職員が交代で研修できる機会を計画しております。また、新人職員にはケアの実際のほか話し合いを多くもち精神面でのフォローを大事にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	インターネット上のホームページ等を活用して、情報交換を試みております。書類作成や同業者の情報を頂いたりしながら、施設サービスの向上に反映しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談・入所に向けたデイサービスを通し利用者に会う機会を作り、本人の不安や要望を傾聴し、不安意識の軽減に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談・見学の段階からなるべく直接来所していただき、お話を傾聴しております。本人のこれまでの生活歴や、現在、特に困っていることなどを明確にさせて頂き、家族の思いを受け止めるよう心掛けております。		

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐ入所につながらない場合でも、事業所として対応できることなどの助言をして、必要に応じケアマネジャーや包括支援センター、各サービス事業所と連携をとり対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴より、得意分野を見出し日常生活に反映しております。日頃の言葉遣いや、寄りそう姿勢に留意し、一緒に生活する者同士として、尊重し合っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の心身の状況に変化が発生した時は、即座に家族に連絡し、ご利用者様の状況を把握して頂けるよう努めております。ご面会の際には生活の様子を報告し、ご家族様とご利用者様が憩いのお時間を育めるよう、配慮しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外泊の制限は特に設けず、これまでの馴染みの方とのつながりを持ち続けられるよう支援してはりましたが、社会情勢(ウィルス感染症)等の状況に応じて、家族と相談して対応させて頂いております。	利用者の高齢化に伴い、来訪する知人、友人が少なくなってきたことに加え、コロナ禍もあり、昔馴染みの人との交流は殆んどない。今は思い出の場所巡りのドライブも自粛している。ユニット合同のお花見会、夕涼み会、敬老会等様々な行事を企画し、ユニット同士で交歓できる機会を多くつくるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居室やリビング以外にも、気軽に話ができるミニ談話スペースを設けております。孤立しがちな利用者には、職員が寄り添い他の利用者とかかわりやすい雰囲気作りを支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に移られたあとでも、ご家族や他施設からのご要望に応じて、退所後も相談できる場として関係を大切にしております。		

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前より、本人の生活歴やご希望を把握し、また日常の生活の中での発言をケースに記録して職員間で本人の思いを共有しております。家族とも相談し可能な限り沿えるよう支援しております。	殆どの利用者が自分の思いや希望を表現できる。職員は、触れて欲しくないことなど本人の気持ちを大切にしながら寄り添い、昔話ややりたいことなどを聴取している。居室に横になったきりの利用者が皆とホールで過ごしたいと職員の支援を受けながらリハビリに励み、皆に受け入れてもらいながら食卓で食事が出来るようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の利用者情報を活用し、またご家族からの情報を傾聴しております。日頃のケアで関わりのある職員が、ご本人の思いに触れる機会が多いので、よくお話を聞くように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の話したこと、行動等をそのまま記録するよう心掛けております。職員が観察して、困っている様子など、小さな気づきも記録し、職員間で「申し送りノート」を活用しながら、生活支援を実施しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の観察記録、健康診断等の医療情報をもとに、モニタリングと職員間で意見を出し合い、介護計画に反映しております。	地域包括支援センターからのプランを参考に仮プランを作成し、1ヵ月程度、状況の確認を行った上で正式のケアプランとしている。基本的には、ケアサービスの短期目標を6ヵ月、長期目標を1年と設定している。ユニット別に、一人一人の利用者について、毎月職員が交代しながら実施するモニタリングをもとに、必要時には主治医や家族からの意見も取り入れ、職員全員によるケアカンファレンスを開催し、現状に合った適切なケアプランになるよう適時に見直しを行っている。	心身介助や医療を中心としたケアプランに加え、その人に適した日々の暮らし方の目標と取り組み方法もプランに位置付けることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、通院記録・訪問看護記録等で情報を共有しております。ご本人の生活の様子、身体状況等を把握に努め、医療機関・その他関係機関と連携をとり、介護計画の見直しに反映しております。		

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービス事業を実施しております。共用型デイを利用することで、早めに施設に慣れ、入所時のストレスの軽減が出来るように取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容サービス事業者に来所して頂き、ご利用者のリフレッシュに努めております。介護専門雑誌やYouTubeを活用し、利用者様の生活の活性化に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の希望とし馴染みの医師に診療を受けられるよう支援しています。希望により法人の医師に変更する際にもスムーズに診療が受けられるよう情報の提供や受診の支援をしています。(法人医師による月一回往診あり)	運営母体が医療法人(内科クリニック)になっていることから、利用開始時に、利用者、家族の希望により、かかりつけ医を法人のクリニックに変更している例が多い。かかりつけ医による毎月1回の訪問診療により適切な医療受診が確保されている。皮膚科、眼科等の特定外来の受診には原則家族が同行している。内科クリニックの看護師が月2回来訪し、利用者の健康チェックや職員への助言、指導などを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人のクリニックと医療連携をしており、看護師が毎月2回来所し、ご利用者様の健康チェックを、定期的を実施しております。体調変化の際は、随時、電話連絡を取り合い、医療的な対応について、指示を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の様子などの詳細は「暮らしのシート」を作成し、文書にて医療機関に情報提供を行っております。入院期間中は、医療相談室と連携し、情報収集に努めております。退院時は、病院のカンファレンスに出席し、治療経過と、退院後の生活支援の留意点を協議しております。		

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての指針の方針や、重症化した場合の施設の対応等を説明しております。重症化した場合は、施設で対応できることと、できないことなどを職員間でも話し合い、ご家族のご意向を踏まえて、相談しながら執り進めております。	平成16年の開設以来、数名の看取りを経験しており、現在、看取り経験のある職員は5名いる。重度化が進み、施設設備での対応が難しくなった場合、食事が摂れなくなった場合等には、改めて他施設への移転を相談すること、看取りは希望によりホームで対応できることなどについて、利用開始時に、「重度化・看取り指針」をもとに利用者、家族に説明し、同意を得ている。現在、移転や看取りを必要とする利用者はいないが、平均年齢が高く、今後、重度化が進むとともに終末期を迎える利用者が増えることが想定され、指針を見直し、ホームとして段階毎にどう対応して行くか、全体で話し合いたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応はマニュアル化しており、法人母体であるクリニックと連絡体制を整備しております。事故が発生した場合には、事故報告書等で詳細に報告・検証を共有し、再発防止に取り組んでおります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害が発生しやすい地域ということで、敷地を高くしております。避難訓練等も実施し、地域の方々の協力も得ております。スプリンクラー等の設備点検は定期的にも実施し、避難時の非常食も常備しております。	ユニット合同で春秋の火災避難訓練を実施している。昨年10月には、台風による水害警戒レベル3が発令され、避難先である法人医院に介護タクシー2台で全員避難した。夕刻であり夜間訓練にもなり、貴重な体験になった。区長さんを始め近隣の方々から防災訓練の協力を得ている。	定期の避難訓練のみで安心することなく、リハビリも兼ねてホームの内外の避難経路を皆で歩いてみるなど、日常的に緊急時の避難を意識した生活が望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令や指示的な呼び方や慣れ合いの呼び方をしないよう留意しております。入室の際にもお声掛けし、トイレ介助、自室でのオムツ交換時にもプライバシーに配慮して対応しております。	利用者の個室には声がけをしてから入室すること、触れて欲しくないことは他人の前で話さないことなどを徹底している。トイレや入浴においても、個人の尊厳を傷つけないように支援している。行事での看板書きや飾りつけなど、利用者個々に得意なことに取り組み、誇りや生きがいを持って生活できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がご自身のご希望を話しやすい状況や場所等にも配慮しております。自己決定が難しい場合には提案したり思いを汲み取るように努力しております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、基本的な生活時間は概ね決まっておりますが、その時の本人のペースを大事にし無理強いないようにしております。日中の生活は、個々の過ごしたいように過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のご希望をお聞きしながら、理美容サービスの利用を支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご利用者様と職員が共にし、それぞれの感想を話しております。ご利用者様の介護度が高く、毎日調理に参加して頂くことは難しくなりましたが、行事の際に、一緒におやつを作り、季節の移ろいなどを感じて頂いております。	献立は、調理師資格のある職員が2週間毎に作成し、週2回の買い出し、調理は両ユニットの職員が交代で行っている。行事食等は食べたいものを一人一人に聞きながら、喜ばれるメニューを工夫している。人気メニューは、お赤飯、かぼちゃ、すいとんである。ホットケーキなどのおやつ作りは、利用者と一緒にしている。3卓のテーブルに職員が加わり、3、4人のグループで楽しい食事時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量を記録し把握しております。好き嫌いのあるご利用者様には、別メニューの食事をご用意したり、調理方法、配膳の仕方を工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいや歯磨きを支援しております。義歯使用の方は、義歯洗浄剤を使用し、口腔ケアに努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、失禁の対応やおむつ交換の介助の必要を把握しております。職員間でケアの方法を統一し、自立支援に向けた支援を試みております。	殆どの利用者がトイレで用を足しているが、車椅子使用者(両ユニットとも6人)等、全介助が必要な利用者が両ユニットにそれぞれ3人おり、他の利用者もおむつ交換、着脱等の介助が必要になっている。居室にセンサーを設置せず、夜間には、カスタネット、鈴で呼んでもらい、支援に当たっている。現状維持から少しでも自立に向けた改善を目指し、根気強く支援に取り組んでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の訴えのみならず、定時のトイレ誘導や、指示薬等の使用を実施しながら、便秘解消に努めております。野菜など繊維を含んだ食品して頂き、牛乳や水分の摂取を促しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが、個々のペースを大事にしております。入浴拒否がある方には、タイミングや声かけを工夫して無理強いされた印象をもたれないよう配慮しております。	週3回、希望により午前、午後を選んで入浴している。楽しい入浴の時間になるよう、歌を歌ってもらったり、菖蒲湯、リンゴ湯等の工夫を行っている。車椅子利用者など、複数の職員による介助を必要とする利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、ゆっくりと話しかけながら、タイミングを見て入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々のペースに合わせて、着替えや口腔ケアの支援をしております。日中でも、自由に自室で休息をお取りして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤の説明書に沿い、ご利用者様の服薬内容の理解に努めております。内服薬の変更時には、「申し送りノート」等に詳細を記載し、職員の情報共有に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや、施設の行事の準備の中で、それぞれの得意分野を活かせるよう職員がお声掛けをしております。隣のユニットに気軽に遊びに行き、交流を深めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防を考慮し、ご家族とご相談しながら支援しております。かかりつけ医への通院を中心に、健康管理を考慮しながら実施しております。	コロナ禍以前には、近くの遊水地公園に散歩に出かけていたが、現在は、マスクを付けての外出が難しいことから、安全を優先し、買い物、ドライブとも自粛している。外出は通院時に家族と出掛けること位になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は、ご家族が実施しております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿い、施設の設置電話を活用したり、ご本人の携帯電話を活用し、家族等への電話を支援しております。手紙やハガキなども、随時、対応致しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や整頓を実施し、明るく居心地のよい空間であるよう心掛けております。なるべく自然の採光を取り入れ、室内を季節ごとに飾り付けをしております。リビングルームではテーブルの位置を移動したり生活感、季節感を取り入れております。	車いす利用者が多いことから、ホールでは、深めのソファは使用せず、3卓の食卓テーブルと椅子で過ごしている。エアコン、ファンヒーター、加湿器で温度と湿度が管理され、快適で過ごしやすい共用空間が確保されている。アイボリー系で明るく落ち着いたクロス壁等に桜、鯉のぼり、紫陽花、藤の花等の飾りつけを行うなど、季節感のある雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	移動の途中で、休憩したり、仲の良い方々で対話できるよう、廊下のコーナーを活用しております。リビングにも、簡易ソファがあり、休息に利用して頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、馴染みの物や家具・家族の写真等を持ってきていただくようお願いしております。各自、ご自身の居室をアレンジして、ご利用されております。	ベッド、クローゼット、洗面台などが配置され、利用者は家族や職員と相談しながら、テーブルや椅子を始め、家族写真やぬいぐるみなど、使い慣れ、また慣れ親しんだものを持ち込み、自分好みで居心地のいい部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、ご利用者様が安全に移動できるよう動線を確認し、自由に歩行して頂いております。トイレや浴室に入口にはわかりやすいように手作りの表示をして、夜間にも迷わないよう工夫しております。		